

- ・巻頭コラム(杉浦 良)
- ・お知らせ(エアコン寄贈、柳澤監督映画上映会、フードバンクにお米寄贈)
- ・ご協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

206号/2024.9

Since 1984

「続・働く中身を考える」

杉浦 良

R6. 8. 14 の徳島新聞に「障害者 5,000 人解雇・退職 就労事業所 329 か所閉鎖 県内 3 か所、61 人 報酬引き下げ要因」とありました。9. 16 には「A 型事業所 閉鎖相次ぐ 障害者就労継続支援 報酬改定で経営悪化 最賃引き上げも逆風」9. 17 の社説には「最賃上昇のしわ寄せ防げ 障害者の就労支援」と大きく取り上げています。

機関紙 200 号コラムで「地元新聞に障害者雇用「代行」急増—企業に貸農園 85 か所で 5000 人—法定率目的 800 社利用、とありました」と書かせてもらいましたが、今回の新聞報道は似ているようで、実は中身が全く違います。

就労継続 A 型事業所は利用する障害者と雇用契約を結び、最低賃金を支払う必要があります。一般の事業所と違うのは、利用する障害者に給付金が公的資金で支払われます。

そのお金で支援する職員の給料や事務所の維持経費等を支払い、障害者の賃金は事業（作業）収入から必要経費を引いた利益から支払わなくてはなりません。支援する職員と利用する障害者を分け、それぞれ給料の出所を分けているところは、同じ職場の労働者と言いつらいところです。そして問題なのは、事業（作業）収入で利用する障害者の給料を支払うのが、実は非常に難しいのです。



昼食カレー用の食材カット作業

「・・・7割は、いや8割くらいはやれていないのと違う？・・・だから給付金（公的資金）から流用してるわけ・・・長く働いてもらおうと成り立たないから・・・短い時間しか働いてもらわない・・・最低賃金を作業収入で稼ごうと思ったらそれは無理・・・作業は内職（仕事作りが楽なので）で職員給料や経費を切り詰めれば・・・それなりに儲かる・・・」

そんな話を聞きました。

「・・・障害者自立支援法が2006年（H18年）からスタートして、一般就労が難しいメンバーには就労継続支援A型で対応してもらって・・・それでも難しいメンバーには就労継続支援B型（労働契約は結ばず、給料ではなく工賃を支払う）で対応する・・・働くことが難しいメンバーは生活支援に・・・そんな構想が厚生労働省にあったけど、現実はなかなか難しい・・・就労継続支援A型が増えないので給付金補填をOKにしたら増え出した・・・でも今まで福祉の世界にいた方は、商売の仕方を知らないのだから、なかなか利益を生み出せない・・・経営感覚やマーケティング手法に疎いから・・・公的資金の補填から抜け出せない・・・」

そんな話もありました。

「・・・悪しきA型と呼ばれる就労継続A型事業所には2通りあって・・・最初からお金儲けが目的の所と、社会の役にも立ちたいと思っているが、経営手法が全くわかっていない方が運営し経営が破綻しかけている所がある・・・事業（作業）収入が赤字で給付金が大きく削減され経営破綻したA型から、健全なA型に利用する障害者が移るとすれば、それはむしろ厚生労働省の改善策に効果があったのではないだろうか？・・・しっかりやっている少数派のA型は今回の報酬改定は全く問題ないと言っている・・・かつて福祉工場や収益をあげていた授産施設だった所が多いのが現実だ・・・ただ将来最低賃金が1500円近くなったら難しい・・・」

そんな話も出てきました。

「・・・労働なのか福祉なのか？人を区分することで漏れてしまうところが出てくる・・・どだいインクルージョンとカテゴライゼーションは相反する・・・分けないとすれば、全従業員の3割くらいの障害者（生きにくさを抱えた人達）を受け入れることで、社会保険料の事業者負担分免除や優先調達制度活用といったメリットを付けながら、細かく分類せずにざっくりとした社会的協同事業所構想を展開する方が良いのでは・・・」

そんな障害者総合支援法の根本問題に向かう話も聞こえてきます。

非正規労働者が増え続け、同一労働同一賃金が叫ばれる中、ハンディーがあるからといって一般社会から乖離する働き方は、社会を分断し、生きにくさを抱えたメンバーたちを排除する方向に向かうのは、歴史を振り返ってみれば当たり前のことのように思えます。

ただ悪しきA型事業所に通いながら最低賃金をもらって生活するメンバーにとって、その給料が自分も含め生活を支える大事な収入になっている方も少なくありません。悪しきA型事業所が閉鎖され、就労継続B型に移れば生活が成り立たない方もいるでしょう。うまく健全なA型事業所に移れば良いですが、数少ない健全なA型事業所が通えるところにあるわけでもありません。

この問題の奥深くには障害者年金など生活保障の貧困が見え隠れします。一朝一夕には解決できませんが、小細工をせず生活保障の軸で考える必要を、改めて思います。

お知らせ

エアコン寄贈

2006年4月、火災で焼失した建物が再建復活した際、電気工事から水道配管、合併浄化槽等の工事を実費で引き受けて下さったのが(株)エコリースの森本会長です。

その時、1階事務所と2階面談室に三菱エアコンを無償で付けて頂きました。「中古のエアコン付けたからお金はいらない・・・」

そんな有難いお言葉を頂き18年が過ぎました。

1階事務所のエアコンにエラー表示が現れ、そろそろ寿命のようです。来客の時くらいしか使いませんが、近くの電化製品量販店に出向くと

「業務用なので、三菱で取り外し処分をしてもらってから、新しいエアコンをこちらで取り付けることになり、工事がいつになるか分かりません・・・」と言われ、失礼を承知でエコリースさんに電話を入れました。

「中古のエアコン付けるからお金はいらない・・・」

「工事費や処分料等、請求していただかないと、こちらも困りますので・・・」

そんな押し問答の末、ダイキン製エアコン(2016年製)を取り付けて下さいました。エアコン本体、処分料等はエコリース様からの寄付です。有難う御座いました。

手づくりのジャム

当会の活動を会員として、長年ご支援下さっている吉野川市のHさんご夫妻から、今年も手作りのブルーベリージャムをたくさん頂きました。ご主人が栽培されているブルーベリーを朝摘んで、奥様がジャムにされているとのこと。手間暇かけて作られた貴重なものを、いつも本当にありがとうございます。

研修に来られました

(公財)徳島県勤労者福祉ネットワークの皆さんが「社会課題に臨む一学とフィールドワーク」をテーマに、第1弾(8月19日)11名、第2弾(9月20日)10名の方々が参加されました。リサイクル作業所所長の小山が現場案内をした後、2階の面談室にて「人も物も活かされる活動を40年続けて」と題したパワーポイントを使い、お話をさせて頂きました。バックナンバーの機関紙もお配りし、「40年も続けられたのは何故ですか？」など熱心な方々のポイントを突く質問にお答えしながら、あっという間に時間が過ぎました。

以前に品物を持ち込んで下さった方もおられ、拙い説明を聞いて下さった皆様ともども感謝です。猛暑の中、お疲れ様でした。

桃が届きました

かつて1年間ボランティアとして日本青年奉仕協会(JYVA)(現在は解散)から派遣された0さん。今まで来た若者で唯一の東北出身者です。当会が火事に見舞われた2005年から活動し、ボランティア終了後はアルバイトとして活動に参加してくれました。

地域おこし協力隊という言葉が最近聞きますが、何十年も前、JYVAの1年間ボランティア365は、公的資金の投入は少ないが、先駆的で意義深いものでした。

そんな0さんが福島に戻り結婚して、名産の桃を送ってくれます。こちらがこれまでの貢献に感謝しなければならないのに、本当に有難いことです。

柳澤監督映画上映会

8月25日(日) 藍住町総合文化ホールにて「風とゆききし」1989年制作154分の上映会を行いました。午前の部、午後午の部の2回上映で、延べ90人の方がご覧になりました。柳澤監督の奥様からのカンパでスタッフ・メンバーの弁当も用意できました。最終回は特別にほっとハウスのお菓子を付け、きらりのお茶付き弁当と合わせてメンバー達も大満足です。

5年にわたって柳澤壽男(やなぎさわひさお)監督・福祉ドキュメンタリー5部作を無事に上映することが出来ました。これも小西昌幸さんはじめ藍住町総合文化ホールの館長・関係者の方々、広報宣伝をして頂いた徳島映画センターの福永さんや宮崎和尚、服部和尚など皆さんのお陰です。心より御礼申し上げます。

以下、映画終了後のご挨拶の文です

本日は「風とゆききし」をご覧いただき有難う御座いました。この映画を見るたびに私は盛岡市民福祉バンクの所員とよばれる皆の思いを、しっかり受け取れるだろうか?そんな不安を抱きます。日々日常の忙しさにかまけていることの多さを、残念ながら感じます。

この映画は柳澤壽男監督が福祉ドキュメンタリーとして作った第5作目です。

5年前、最初に上映した「そっちやない こっちや」が1982年。その次の「夜明け前の子どもたち」が1968年。次の「ばくのなかの夜と朝」が1971年、昨年の「甘えることは許されない」は1975年に制作されました。今回の「風とゆききし」は1989年、次は「ナースキャップ」と仮に名前を付けて撮影準備をしていましたが、慢性白血病で1999年6月16日に83歳でこの世を去りました。太陽と緑の会創立者近藤文雄が亡くなった翌年のことです。

映画新聞90号1992年8月号に「阿賀に生きる」の佐藤真監督にあてた、皆さ

んにもお渡しした柳澤監督の文章があります。これを読むと「風とゆききし」制作の苦渋や苦悩が読み取れるだけでなく、柳澤壽男の視点や方向性が良くわかります。

「失敗作だ・・・」と本人がこぼしたこともあります。私はこれが監督の思いが込められた一番の作品だと感じています。

心身障害福祉の父と言われた糸賀一夫は「この子らを世の光に」と訴えましたが、柳澤監督は5作品を作るなかで、障害者と言われる皆さんから生きるエネルギーをもらい、そして救われた感を抱いたので、は?と勝手に思っています。

実は「ナースキャップ」の構想と同時に、太陽と緑の会にもビデオカメラを持ち込み、監督兼カメラマンとして動いた時期もありました。残念ながら思いは遂げられませんでした。こうして徳島県藍住町総合文化ホールにて5部作を5年間かけて上映できたことは、あの世で柳澤監督も喜んでいいると思います。

このような映画会を行うことが出来たのも元北島町創世ホール館長の小西昌幸さんのお陰と、心より感謝申し上げます。またこのような素晴らしいホールで行うことができましたのは館長さんはじめ森田さん高磯さんや技術スタッフの皆さんの協力の賜物と思っています。

最後に広報宣伝して下さい下さった方々、そして5部作全部をご覧いただいた皆さんと、今回ご覧いただいた皆さんに、心より御礼申し上げます。有難う御座いました。



フードバンクに お米を寄贈しました

8月18日の徳島新聞で「フードバンクとくしまー在庫枯渇ピンチ 物価高で需要↑寄付↓」の記事を見つけました。数日後、お電話でお伺いすると「・・・少しずつ持ってきて下さる方も増えてが、まだまだ在庫が不足している・・・」とのこと。

8月26日、とりあえず用意できた玄米180キロをフードバンクとくしまにお届けしました。

その後当会に「活用して下さい」とお持ち込みや回収で頂いた玄米が30キロ6袋になり、9月9日、第二弾として、フードバンクとくしまにお持ちしました。

「今年の越冬支援に、お米は配れるだろうか？」

そんな関係者の不安が少しでも薄ければ良いのですが・・・



Facebook より

太陽と緑の会リサイクル作業所の昼食は、毎日配達して頂いているおかずのみのお弁当(350円/食)にお味噌汁とご飯がつきます。お味噌汁はメンバーのTさんが、お客様から頂いたお野菜も使わせて頂いて、毎日作ってくれています。

ご飯は毎朝電話担当メンバーのNさんがライスストッカーで米を計量し、といでから炊飯器にセットして炊いてくれましたが、7月29日からその役割をメンバーのTさんにバトンタッチをしました。

3日間、ご飯がうまく炊くことができたメンバーのTさん。家に帰ると、夕食はスーパーで買ったお弁当、ご飯はパックご飯をレンジで温めて食べる毎日。

「せっかくご飯が炊けるのだから、リユース品の安い炊飯器をここで買って、お米を買って自分で炊いたら？ お金が安くて済むよ」という声に

「後片付けが……嫌い……」

炊飯器は掃除が面倒、というのは、普段やっている人であれば思わず頷いてしまうところですが…。

紆余曲折の末、2014年製3合炊きの炊飯器(リユース品)を購入して帰りました。(計量カップが必要になるので、食堂にあった中古のカップをおまけでつけておきました。)

夏休み期間中、早速その炊飯器でご飯を2回炊いたとのこと。お米を自分で炊けば、食費の節約になるでしょう。

この半年の間にお客様から頂いたお飲み物やお菓子、インスタント・レトルト食品などを、夏休み前のささやかなプレゼントとして、様々なハンディを持ったメンバーさんに全員に配らせて頂きました。ちょっとしたことですが、元気が出て、前を向いて歩いていくことができるようになります。本当にありがとうございます。

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2024年6月1日～2024年8月31日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

磯田、米田、匿名、竹原、服部、中井、中西(郵便振替口座)三木、内原

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

○徳島市○小林、笹田、大西、服部、新居、三木、木村、佐藤、東、ナカノ、坂口、立石、澤田、栗飯原、谷井、庄野、高尾、鈴江、森下、鎌谷、新開、行本、板東、厚美、田所、渡辺、永榮、八島、林、谷本、宮井、溝杭、ヤマカワ、川口、船戸、多智花、山本、板村、山田、小倉、竹林、吉田、美馬、吉岡、高岡、佐々木、福島、斎藤、多田、山口、柳本、芦田、津司、猪山、武市、松田、中木、瀧、英、菅井、植木、井上、片岡、佐野、伊勢谷、牧、津田、坂東、白石、高橋、平田、矢和田、神川、西、田中、竹中、青江、美こし、大和、港、一森、吉本、松本、住友、四宮、西谷、三間、川崎、加納、蒲原、原田、幸平、滝原、大島、富永、和田、前田、イワセ、細川、バンデワレ、藤本、厚美、大上、立石、永栄、斎藤、キモト、カントウ、杉浦、加賀谷、松本、大久保、片山、後藤、村上、森、樋口、松田、岩佐、長野、安藤、山崎、安倍、下山、岡田、桂、田村、福山、しま、村井、松下、赤堀、大石、岸、本田、服部、中村、中山、金谷、福永、小笠原、山下、木内、島谷建設、月岡、朝川、原、大磯、千山、小松、佐野、和泉、簗手、梯、瀬尾、藤田、中木、元木、岩崎、泉、藤原、的場、島野、藪内、川部、上久保、カワカミ、花井、竹中、鎌田、西條、久田、堂久保、上山、武岡、西木、大竹、三好、福井、竹内、棚次、近藤、原、宗、井藤、上田、汀、○阿南市○サイジヨウ、檉野、米田、栗飯原、十枝、松内○北島町○吉田、竹野、合田、小出、浦川、石山、森内、田中、浦川○吉野川市○酒井、中窪、向井、守松、竹内、吉田、西濱、ヨネダ、やべ、井元○松茂町○山本、岩本、大泉○石井町○森野、新居、高橋、長篠、笹本、川崎、中林、白石、後藤、武田、出口、矢部、山口、岡本、後藤田、林○鳴門市○渡辺、浪花、西田、山本、増原、奈良、東條、芝、正木、忠津、青木、林○小松島市○千田、川井、岩本、平田、飛田、○上板町○安岡○勝浦町○谷口、ヴィアーストラータ○藍住町○高里、三好、奥村、熊本、新谷、仙谷、喜多、蔭山、瀧山、譽田○美波町○和佐○板野町○村田、岩井、楠本○山本○阿波市○吉本、川崎、森、森本○東みよし町○下西○海陽町○神沢○神山町○松村、佐々木、塩田、神野、中央森林組合、河野○つるぎ町○田中○その他○田中○山形県○遠藤○埼玉県○本田○香川県○佐藤、松村○東京都○三木○京都府○木村、井上○愛知県○松浦

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○井藤、山口、栗尾、檉原、喜多機械産業、大北、恰、岡久、中川、野口、井上、宇治製薬、柿本、出口、矢本、大智、大蔵、青木、中村、三宅、吉岡、高橋、三木、中田、長野、倉島、前川、高木、大櫛内科、八木、吉川、野田、鈴江、安芸、佐々木、奥山、ライフリビング 松友、井利、小野、藤川、河野、佐藤、大塚、吉野、西尾、宮越、橋本、中野、伊澤、立川、宮田、岩本、松村、ナカムラ、横田、大橋、喜来、西山、松崎、吉田、松田、青い鳥サービスセンター、高松、森田、近清、杉野、折原、穴吹コミュニティ 貫井、幸田、廣田、梅寿、井口、ツボ、濱田、篠原、西條、村山、大西、尾形、佐々木、中西、なの花徳島、藤本、山上、吉見、四宮、福田、吉野、田中、穴吹ハウジング、山内、大櫛、佐川、櫻井、中村、川野、多田、カンガルー歯科、井口、株木、竹原、東川、シンコウ ハウジング、富士谷、高曽根、荒尾、大西、濱田、前田、土肥、増田、筒井、川崎、

藤田、榎本、明石、鈴木、脇谷、服部、森、宮越、助国、斉藤、ノボリ、近藤、中尾、松村、谷、真鍋、三原、出口、教育研究所、渡辺、柴田、浜田、大磯、すぎのご保育園○小松島市○木下、中野、杉原、松田、長岡、立石、渡辺○鳴門市○坂、リッチド鳴門3、米田、久龍、森、真田、佐々木○吉野川市○美馬、田村、桑原、染織館、中西○石井町○三木、遠藤、友竹、後藤、谷田、楠、山崎○藍住町○高橋、天羽、美馬○上板町○中島、岡本○北島町○宮地

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。旬のお野菜やお米を持って来て下さった皆様、お飲み物やお菓子、自家製の梅酒や梅干しなどを下さった皆様も有難うございました。お野菜やお米は作業所の食材として大切に使用させて頂いております。諸物価が高騰している中、本当に有難いです。また浄土真宗のお寺（尊光寺等）の皆様からの食料品・調味料等を、フードロス活動で竹條さんが持ち込んで下さいました。

品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方も多数おられます。頂いた品物は大切に活用させて頂きます。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。※本誌へのお名前の掲載を希望されない場合は「匿名希望」とご記入頂ければ幸いです。

編集後記

今から30年前、日本青年奉仕協会(JYVA)の夏のワークキャンプ事業(徳島)に参加したことがきっかけで、現代表の杉浦に出会い、太陽と緑の会の「人も物も活かされる街づくり」の活動に関わらせて頂くようになりました。

ダイバーシティという言葉がまだ使われることのなかった時代、様々なハンディ(3障害)を持ったメンバー、ユニークな経歴を持つボランティアやスタッフ、品物の提供やリユース品の利用という形で活動を利用されている、様々な国籍と幅広い年齢層の市民の皆様(中には仕入目的の古着屋・古物業者の方、万引き・転売目的の方まで)、こういった多種多様な人たちが混然一体となって織りなす空間は、大学を卒業したばかりの私が

漠然と抱いていた「障がい者福祉」のイメージを覆すものでした。

「公的資金になるべく軸足を置かない」活動のため、運営的には大変厳しい状況でした。市役所の仮庁舎として4年半使用されていたものを移築してリユースしたプレハブ2階建ての建物にエアコンはなく、夏は天然のサウナと化し、冬は屋外同然の寒さでした。法人格を持たない任意団体で、「職員に社会保険もないのか」とハローワークで嘲笑され(職員3名の任意適用事業所でした)、業者さんをお願いするだけの資金がないから自分たちでやり、備品も新品が買えないのでリユース品を修理して使う、年間300日の活動は今日のような「働き方改革」の世界とは真逆の世界でした。

「3万円くらいの仕事をして、1万円しかもらえない」としたら、「割に合わない」と思われる方もおられるでしょう。公的資金に軸足をシフトすれば運営資金が何倍にも増えて運営が楽になり、作業環境も改善し、職員の生活保障も充実したものになります。

実際各方面の皆様からことあるごとに「軸足のシフト」を勧められました。「公的資金に軸足を置かない」ということは、「割に合わないイバラの道」を進むことです。

「割に合わない」活動を続けていくためには、「なぜこの活動をやる必要があるのか」「この活動は社会から本当に必要とされているのか」ということを絶えず問い続ける営みが必要になります。

近年障がい者福祉の世界でも、公的資金をフル活用した「割に合う」サービス事業に、株式会社などの営利法人が続々と参入し、大々的な広報宣伝活動や「サービス利用者」の争奪戦を行い、全国規模でフランチャイズ展開、ビジネス展開する事業所まで出てきました。

生活保護制度を活用したいいわゆる「貧困ビジネス」と見まがうほどの「障がい者ビジネス」も存在しますが、法律的・制度的には何ら問題はないので、難しいところです。

ビジネスとして割に合わなくなったときには一斉に撤退していく可能性は否定できませんが…。

市民活動団体は団体の存続自体が事業の目的になってはならないと思います。ミッションに合わないことでも団体の存続のために引き受けるようになり、いつしか事業もミッションも変質していくからです。

ミッションが社会から必要として頂けている限りは、雑草のように地道にしぶとく続けていきたいと思っています。

(文責:小山)



イラスト
柴田君

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街づくり」をテーマに、ハンディのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立ていけること」を目指し、様々な方々（市民、ボランティア、行政）の支えを頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く豊かであることを願っております。

発行:NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1
TEL・FAX 088-642-1054

代表理事 杉浦 良 編集 小山 隆太郎

ご協力者名簿作成担当メンバー 岡田

宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田

年会費：正会員 1万円 (総会議決権)

準会員 1,000円 (機関誌発送のみ)

郵便振替口座

01620-8-44703

加入者名：特定非営利活動法人太陽と緑の会